

ハイパーサーミアへの道のり

熊本セントラル病院

臨床工学科 緒方誠樹

外科 古閑 敦彦

当院は、22の診療科を有する、計308床の病院である。臨床工学技士（以下CE）は常勤4名で様々な業務を行っている。主な業務内容は医療機器管理・人工呼吸器管理・高気圧酸素治療・手術室業務・血液浄化業務と多岐にわたっている。今回新たにハイパーサーミア業務が開始となった。しかし開始に至るまで通常では起こり難い問題に直面し2度もハイパーサーミア導入が危ぶまれる事態となった。今回ハイパーサーミアへの道のりと題し2度の問題を含む導入までの道のりについて報告する。

最初の問題として、当院事務長の突然の訃報。

当院事務長はハイパーサーミア推進派であった。ハイパーサーミア導入が最終決定する前日に事務長が突然の他界。事務長は当院の常務理事だったため、全ての投資計画を一旦凍結し、混乱の収束を優先させた。ハイパーサーミア導入も凍結となった。

第2の問題として2016年4月14・16日の熊本地震。

熊本県益城町や西原村などが甚大な被害を受けたが、当院も甚大な被害を受けた。この数日前にハイパーサーミアの導入が決定し、正式に発注依頼を出す直前の被災。復興が最優先課題となり再び凍結扱いとなる。

このように2度の問題を乗り越え、検討を開始してから3年後に導入の運びとなった。